

# 産業地域事業団（IAF）の思想と行動

——アリンスキーとそれ以後——

河 田 潤 一

## 1 はじめに

2016年11月のアメリカ大統領選挙でドナルド・トランプに敗れたヒラリー・クリントンは、保守的な父親の影響もあって、十代の頃は共和党支持者であった。だが、進学したウェズリー大学時代の教学（特に政治学に関心をもつ）や公民権運動、ベトナム戦争、拡大する女性運動への関心が深まるなか、政治的見解はリベラルへと転じていった。彼女は卒業論文で、草の根民主主義を具現したコミュニティ組織、IAF（産業地域事業団）の創設者ソール・アリンスキー（1909-1972）の地域社会活動を扱っている。

ヒラリーは、アリンスキーの草の根組織を通じた「民衆組織化」という方法を高く評価しつつも、貧困問題の解決には、政府を含む諸制度の「内側」からの変革が必要である、とその手法の限界を指摘している。大学を卒業したヒラリーに、アリンスキーから自分のもつと働かないかとの申し出があったが、断った。申し出を受けることは、権力と政治に関するヒラリーの意識とは正反対の方向へ向かうことを意味した。「ヒラリーは自分にとって有利な道、つまり法科大学院へ進むというエリートコースを選んだ<sup>(2)</sup>」。ロー・スクール卒業後、ヒラリーは、児童保護基

---

(1) Hillary D. Rodham, *"THERE IS ONLY THE FIGHT...": An Analysis of the Alinsky Model*, Wellesley, MA: Wellesley College, 1969.

金への積極的な取り組みを含む公共への奉仕に関係した仕事につき、その後、政治家への道を歩んだ。

また、バラク・オバマ前大統領も、若き時代、シカゴの黒人貧民街でコミュニティ・オーガナイザーとして活動した。オバマは、カルメット・コミュニティ宗教会議から生まれたコミュニティ開発プロジェクトの仕事を通じて、貧困地域の住民が求めるニーズを聞き取り、地元行政や企業のサービスに訴える社会運動に取り組んだ。人種間の偏見と敵意がオバマの仕事を妨げる大きな障壁となって立ちちはだかるなか、彼に与えられた仕事は、シカゴの「サウスサイド地区の工場閉鎖で大量に解雇された人々を団結させるための組織づくりであり、オールドゲルト・ガーデンズの公営の賃貸住宅の住民が、市役所の住宅局に対していくつかの要求を認めてもらうようにサポートすることだった」<sup>(3)</sup>。

オバマは、こうした活動を通じて先達からアリンスキーの戦略を学んだ<sup>(4)</sup>。また、彼が、ロサンゼルスにて本稿の主題であるIAFの研修プログラムに参加していたことは興味深い<sup>(5)</sup>。オバマも参加したことがあるIAFについて、マイケル・サンデルは、「自由の公民的要素の最も有望な表現の1つ」<sup>(6)</sup>と紹介し、「貧困者が多いコミュニティ住民に有効な政

---

(2) Jeff Gerth and Don Van Natta, Jr., *Her Way: The Hopes and Ambitions of Hillary Rodham Clinton*, Back Nine Books, 2007. [成毛眞監訳『大統領への道——ヒラリー・ロダム・クリントンの野望』バジリコ, 2008年, 39頁]

(3) Christoph von Marschall, *Barack Obama: Der schwarze Kennedy*, Zurich: Orell Fussli Verlag AG, 2008. [大石りら訳『ブラック・ケネディーオバマの挑戦』講談社, 2008年, 87頁]

(4) Barack Obama, “Why Organize? Problems and Promise in Inner City,” *Illinois Issue*, August/September 1988, pp.35-40.

(5) James T. Kloppenberg, *Reading Obama: Dreams, Hope, and the American Political Tradition*, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2011, p.28. [古矢旬・中野勝郎訳『オバマを読む——アメリカ政治思想の文脈』岩波書店, 2011年, 62頁]

(6) Michael J. Sandel, *Democracy's Discontent: America in Search of a Public Philosophy*, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1996, p.336. [小林正

## 産業地域事業団（IAF）の思想と行動

治活動の方法を提供するコミュニティを基盤とする組織のネットワークとしての IAF を、1960年代の政治的活動主義の現代的再生<sup>(7)</sup>として、期待を寄せている。

本稿は、ソール・アリンスキーによって創設された、「貧困層の共同体の住民に有効な政治活動の方法を教える共同体を基盤にした組織である<sup>(8)</sup>」IAF を取り上げ、アリンスキーとその継承者の思想と行動を、組織の創設・展開・刷新のなかに探り、IAF に特徴的な行動原則の特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2 ソール・アリンスキーと民衆組織化

### (1) IAF の創設と展開

IAF（産業地域事業団）は、シカゴのロシア系ユダヤ人移民労働者の息子であったソール・アリンスキーによって1940年に創設された。アリンスキーは、地元の公立高校を卒業後、1926年にシカゴ大学に進学し、考古学を専攻した。1930年に大学を卒業したアリンスキーは、大学院に進み、犯罪学を専攻した。広く社会福祉に関心をもった彼は、1931年から40年まで、シカゴ南に広がるストックヤード・公営家畜置場周辺の貧民地区で、青少年犯罪の原因調査に携わった。その傍ら、少年非行の民主的矯正を研究する青少年調査機関の研究者も務めた。

こうした調査活動を通じてアリンスキーは、貧しい住民にとってカポネらのギャング集団が巨大な「擬似公益事業体」であり、また私的な人間関係が彼らが生きる上で不可欠なものである<sup>(9)</sup>ということを学んだ。地

---

弥監訳『民主政の不満——公共哲学を求めるアメリカ（下）』勁草書房、2011年、270頁]

(7) Bruce Frohnen, “Sandel’s Liberal Politics,” in Anita L. Allen and Milton C. Regan, Jr., *Debating Democracy’s Discontent: Essays on American Politics, Law, and Public Philosophy*, Oxford: Oxford University Press, 1998, p.170.

(8) Sandel, *Democracy’s Discontent*, *op. cit.*, p.336. [前掲訳書『民主政の不満（下）』270頁]

地域社会を基盤とした組織づくりの重要性や、専従の活動家の必要性も知った。また、地域社会がうまく回るには、その土地の民衆の民主的な参加が重要なことも学んだ。<sup>(10)</sup>

調査機関時代の後半、1937年から翌年にかけてアリンスキーは、ジョン・L・ルイス（1880-1969）率いる、結成間もないCIO（産業別組合会議）の無給組織家として新聞組合づくりを手伝った。学生時代、イリノイ州南部でルイスやUMWA（米国鉱山合同組合）に反発する極貧炭鉱夫の支援をし、逮捕されたことがあるアリンスキーは、後にこの組合づくりを振り返り、巨大なインパクトをその後受けることになるルイスとの闘いは、「皮肉な経験だった」<sup>(11)</sup>と述懐している。CIOとの関わりはアリンスキーに、権力のための闘争、対立・対決といった戦術、それを行行使す意志力、労働者階級の動員のための積極的・献身的な専従組織家の必要性を教えた。<sup>(12)</sup>

貧しい地域社会の幅広いニーズはいかに表出されうるのか。労働運動、労働者の動員とのアリンスキーの取り組みは、こうした思索を通じて、シットインやボイコットといった直接行動的な民衆動員の方法・戦術へと練り上げられていった。職場内よりも仕事場の外、労働者が生活する地域社会の改善に強い関心をもつようになったアリンスキーは、民衆組織について、次のように語っている。

民衆組織は博愛主義のおもちゃではない。また、社会事業施設の改良主義的なジェスチュアでもない。民衆組織は深く根をおろして、激し

---

(9) Marion K. Sanders, *The Professional Radical: Conversations with Saul Alinsky*, New York: Perennial Library, 1965, pp.20-21.

(10) Saul Alinsky, "Community Analysis and Organization," *American Journal of Sociology*, Vol. 41, 1941, pp.797-808.

(11) Sanders, *The Professional Radical*, *op. cit.*, p.16.

(12) Robert Fisher, *Let the People Decide: Neighborhood Organizing in America*, Boston, MA: Twayne Publishers, 1984, p.50.

### 産業地域事業団（IAF）の思想と行動

くつき進む勢力であり、民衆をとりまくあらゆる弊害の根を切り払い、打破するものである。民衆組織は、ほとんどの人間がまきこまれてしまう悪循環が存在すること、また、ほとんどの人間がそれを打破しようとしつつも誤った方向に努力していることを認識している。民衆組織は、問題を化粧しておおってしまうのではなく、社会の改造手術という観点から考察し、行動する。ここに、民衆組織がその目的地、すなわち民衆の世界にいたる道を、一步一步、戦いとしてゆかなければならない理由があるのである。<sup>(13)</sup>

世界大恐慌の時代にシカゴの最深部で民衆組織化運動を開始したアリンスキーは、CIOを支持するバーナード・シェイル司教と連絡を取り合った。シカゴ・カトリック大司教管区補佐司教であるシェイルは、カトリック青年組織の創設者でもあった。地元で顔が広いシェイルの協力を得たアリンスキーは、ジョセフ・B・ミーガン（1911-1994）とともに、工業地域の貧しさにあえぐ民衆を組織化するために、1939年にBYNC（バック・オブ・ザ・ヤーズ近隣地区会議）を結成した。

BYNCの船出には、厳しいものがあつた。労働組合は共産主義者だと思いついでいる聖職者の支持・共感はなかなか得られず、また企業、市政府、連邦政府との接触も難航した。地域住民の民衆組織になるには、利害が対立し、感情的に反発する人々と妥協するプラグマティックな闘争戦術が求められた。BYNCの結成を、進歩的な民衆組織の全国への拡大の第一歩と考えたアリンスキーは、その思いを実現するために、シェイルやシカゴの慈善家マーシャル・フィールド三世らの協力を得て、1940年にIAF（産業地域事業団）を創設した。いささか古風な響きがる「Industrial Areas Foundation」という呼び名は、CIOの伝統を意識したBYNCからきている。IAFは、工業に取り囲まれた地域社会におい

---

(13) Saul D. Alinsky, *Reveille for Radicals*, New York: Random House, 1946, p. 133. [長沼秀世訳『市民運動の組織論』未来社、1972年、237頁]

て教会・労働組合指導者を中心に民衆の組織化を促進し、「今日の産業都市に民主的な生活様式を取り戻す」<sup>(14)</sup>ことを目指した。

アリンスキーにとって人種的公平と民主主義は極めて重要であり、またBYNCもこうした価値の実現を目指して活動に取り組んだ。しかし、1950年代初頭にあつては、教会やコミュニティ指導者は人種統合に強く反対していた。BYNCは、メンバー間の反目、また主要な支援組織であるカトリック教会の離反を恐れて、人種統合を争点にすることは避け<sup>(15)</sup>た。

こうしたなか、BNYCを中心に長年活動してきたアリンスキーは、1960年には、IAF組織の1つとしてTWO（ウッドローン・オーガニゼーション）を結成した。TWOは、シカゴ大学や地元の教育委員会、連邦教育省と連携をとり、人種差別、高い中退率、ひどい学業成績やギャングといった問題の改善に取り組み、当時のアメリカで「最も重要な黒人のあいだの社会実験」<sup>(16)</sup>として評判を呼んだが、わずか2年で頓挫した。

そうしたなか、『フォーチュン』誌の編集委員であったジャーナリスト、チャールズ・シルバーマンが、人種関係の現状をリベラルの立場から批判した『黒人と白人の危機』<sup>(17)</sup>において、TWOの教育実験を人種問題への一つの回答として高く評価することによって、アリンスキーとIAFの名は一躍全国に広まった。<sup>(18)</sup>IAFは、1964年から67年にかけて、シカゴだけでなく、カンザスシティ（ミズーリ州）にCUA（統一行動協

---

(14) P. David Finks, *The Radical Vision of Saul Alinsky*, New York: Paulist Press, 1984, p.24.

(15) Fisher, *Let the People Decide*, *op. cit.*, pp.56-57.

(16) Sanders, *The Professional Radical*, *op. cit.*, p. 16.

(17) Charles E. Silberman, *Crisis in Black and White*, New York: Random House, 1964.

(18) Saul Alinsky, “The War on Poverty: Political Pornography,” *Journal of Social Issue*, Vol. 21, 1965, pp.41-47. 併せて、Daniel P. Moynihan, *Maximum Feasible Misunderstanding; Community Action in the War on Poverty*, New York: The Free Press, 1969 も参照。

議会), ロチェスター (ニューヨーク州) に FIGHT (Freedom, Integration, God, Honor, Today) を, またバッファローには BUILD (Build Unity, Independence, Liberty, and Dignity) と, 黒人が多く住む地域に3つのプロジェクトを立ち上げた。

アリンスキーは, 1972年に心臓発作で亡くなる直前, 最後のプロジェクトとして CAP (コミュニティ・アクション・プログラム) の創設に腐心した。CAP は, IAF が大都市地域での組織化を行うために創設した最初の団体であり, シカゴ市民のあいだに高まる「空一面を覆う大気汚染」への懸念を集約する, 階級を超えた組織を目指すものであった。<sup>(19)</sup>

## (2) アリンスキーの思想と行動

ところで, アリンスキーの処女作, 『ラディカルズのための起床ラッパ』<sup>(20)</sup> は, コミュニティ組織を政治的意味をもつ制度と捉え, 教会, 労働組合, 街路クラブ, 小規模ビジネスなど地元の組織, 土着のリーダーシップ, 民衆参加に基盤を置き, 地域の利益を守ることに取り組むことの重要性を強調した。

さらに, ベトナム反戦運動やブラック・パワー運動が激しい時代に執筆された次の主著, 『ラディカルズのためのルール』<sup>(21)</sup> は, 組織化の方法をより明確にしている。マーク・ウォレンに従えば, それは以下の3点に整理される。(1) 個人や地域社会の自己利益にプラグマティックかつ非イデオロギー的なやり方で基盤を置くこと, (2) 政党から独立し, 選挙で特定の候補者を支持しないこと, (3) 会員団体が代表者を会合や大会に送り出し, そうした場で公式の解決について議論し, 役員を選

---

(19) Donald C. Reitzes and Dietrich C. Reitzes, *The Alinsky Legacy: Alive and Kicking*, Greenwich, CT: JAI Press, 1987, pp.83-90.

(20) Alinsky, *Reveille for Radicals*, op. cit. [前掲訳書『市民運動の組織論』]

(21) Saul Alinsky, *Rules for Radicals: A Practical Primer for Realistic Radicals*, New York: Random House, 1971.

出す自律した組織構造を通じた民衆参加を重視すること、の3点である。<sup>(22)</sup>

そのアリンスキーにとって「政治」は、「行動」に直結するものであり、「候補者、公職者、あるいはメディアが定義した争点に単に反応する」<sup>(23)</sup>ことではなかった。アリンスキーは、コミュニティの組織化を通じて民衆の自己利益を政治的組織につなごうとした。<sup>(24)</sup>そのためには、分裂的な争点を回避しつつ、農業労働者、福祉事業者、消費者団体などより幅広い支持を得、組織の経済的自立を図り、低所得者層の有権者登録も促進する必要があったのである。

一方でアリンスキーは、民衆組織を世のなかに知らしめ、権力保持者から妥協を引き出すために、「敵対」の手法を重視した。わざと騒動を起こす戦術は、例えば、ウッドローンの黒人低所得層を中心としたシカゴ・オヘア空港のトイレ占拠やロチェスター交響楽団のチケット大量買い占め、<sup>(25)</sup>といった実力行使として現れた。こうした直接行動を通じて参加者は、(1) 自己利益の知り方、(2) 互助の仕方、(3) 対立を人間中心主義化する方法、<sup>(26)</sup>(4) 妥協の受け入れ方を学んだ。こうした民衆の政治教育のやり方にアリンスキーの「都市ポピュリスト」の顔がいかに

---

(22) Mark R. Warren, *Dry Bones Rattling: Community Building to Revitalize American Democracy*, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001, pp. 44-45.

(23) Dennis Shirley, *Community Organizing for Urban School Reform*, Austin, TX: University of Texas Press, 1997, p. 36.

(24) Stephen Hart, *Cultural Dilemmas of Progressive Politics: Styles of Engagement among Grassroots Activists*, Chicago, Ill: The University of Chicago Press, 2001, pp. 71-73.

(25) Neil Bettin and Michael J. Austin, "The Conflict Approach to Community Organizing: Saul Alinsky and the CIO," in N. Bettin and M. J. Austin, *The Roots of Community Organizing, 1917-1938*, Philadelphia, PA: Temple University Press, 1990, p. 152. elphia: Temple University Press, 1990, p. 153.

(26) Shirley, *Community Organizing*, *op. cit.*, p. 35.



もなく現れており、そこに、社会認識の根拠としてアメリカの急進主義の伝統を見出すことができる。<sup>(27)</sup>

アリンスキー自身は、1970年代への展望として、「今日の諸問題は、地域的・全国的なもので、組織には全国的な力が必要とされ、地元を基盤とするだけでは限界がある<sup>(28)</sup>」との認識を示していたが、TWOやFIGHTなどは地元組織、特に教会への依存から脱却できなかった。狭い地理的範囲での外部組織への依存は、彼の都市ポピュリストのスタイルに地方偏狭的、教区的で民族主義的性質を帯びさせもした。TWOは、地元の経済開発を重視し、草の根参加的性格を失った。FIGHTは、経済開発と行政運営の一端を担ったが、1970年代初めに内部抗争で瓦解した。ウォレンは、IAFの民衆組織は、最終的には草の根参加型の性格を失い、脆弱なものに止まったと述べている。<sup>(29)</sup>

しかし、こうした限界があったものの、1960年代後半の過激主義、社会主義イデオロギーの混迷、新左翼的な革命的レトリックが貧困層・労働者階級を置き去りにするなか、経済的変革による社会的平等を追求するラディカリズムのパラダイムを蘇生させたアリンスキーは、70年代、80年代における公民権運動、「貧困との闘い」・福祉権利の拡大を進める

---

(27) Finks, *The Radical Vision of Saul Alinsky*, op. cit., 1984. デニス・シャーリーは、アリンスキーが組織化の原理と方法を聖書、独立宣言、労働組合から紡ぎ出したという意味でアメリカ・ラディカリズムの「勇猛な独立系の変種」であり、1930年代から60年代にかけての左翼の混迷へのうんざり感からくる反政党・反党派主義の「気難しいプラグマティックなラディカル」であったという（Shirley, *Community Organizing*, *ibid.*, pp.35-36.）。シカゴ・ウェストサイド地区におけるアリンスキー組織のOBA（より良いオースティンを目指すための組織）を詳細に分析した、Robert Bailey, Jr., *Radicals in Urban Politics: The Alinsky Approach*, Chicago, Ill: The University of Chicago Press, 1972 は、都市政治におけるアリンスキーのラディカルなアプローチを浮き彫りにしている点で興味深い。

(28) Saul Alinsky, "Tactics for the Seventies," in Sanders, *The Professional Radical*, op. cit., pp.68-69.

(29) Warren, *Dry Bones Rattling*, op. cit., pp.56-57.

運動、コミュニティ協議会活動へと、新世代の活動家に多大な影響を与え続けた点は、強調されてよい。

1972年にアリンスキーが死去した後、当時手つかずであったテキサス州を始めとした米西部・南西部に IAF の組織を根づかせることに成功したのが、次節で取り上げるエドワード・チェンバース（1930-2015）とエルネスト・コルテス（1943-）である。

### 3 アリンスキーの後継者と新生 IAF

#### （1）エドワード・チェンバースと IAF の刷新

ニューヨーク州西部のロチェスターは、イーストマン・コダック社を中心とするカメラフィルム、光学機械の町＝「コダックの町」との異名があった。同社の黒人への差別待遇に抗議した運動が1964年に起こり、白人既得権益層を怯えさせた。アリンスキーが、南部での公民権運動を経験してきたばかりのフランクリン・フローレンス（1934-）牧師ら黒人聖職者の協力を得て立ち上げたのが、FIGHT であった。FIGHT は、コダック社（ロチェスターでの雇用者数は4.1万人）に黒人向けの職業訓練プログラム（600人分）を要求した。同じような要求は、ゼロックス社に対しても行った。

FIGHT は、ロチェスターの持てる者・コダック社との折衝の機会を取りつけ、交渉を進めるのに成功した<sup>(30)</sup>。この件で、黒人組織家をまとめるスタッフ責任者を任されたのがチェンバースであった<sup>(31)</sup>。ロチェスター

---

(30) Edward T. Chambers, *Roots for Radicals: Organizing for Power, Action, and Justice*, New York: Continuum, 2008, p.95.

(31) アイオワ州出身のチェンバースは、カトリック系の男子リベラルアーツ校であるセント・ジョーンズ大学（ミネソタ州）で哲学と古典を修めた後、26歳のときにラッカワナで IAF の活動を始めた。彼は、ニューヨークのハーレムでの借家人の組織化の取り組みでアリンスキーが一目置いていた人物であった（Paul Osterman, *Gathering Power: The Future of Progressive Politics in America*, Boston, MA: Beacon Press, 2002, p.24.）。

でのコミュニティ組織化を成功に導いたチェンバースは、1969年にIAF研修所初代ディレクターとなった。アリンスキーの著作、『ラディカルズのためのルール』には、当時のチェンバースのコミュニティ組織化の経験が多く紹介されている。

チェンバースは、「ワンマンショー」を好む、カリスマ的な雄弁家・扇動家でもあったアリンスキーとは違って、典型的な組織人タイプであった。彼は、IAFの活動を全体的に監督する理事会や専門的組織家が必要だと考え、職業的組織家の発掘と訓練プログラムの立ち上げに尽力した。そのためには、相応の資金が必要であったが、アリンスキーの死後、IAFは財政的に行き詰っていた。アリンスキーの場合、ほかのコミュニティ組織との関係は長くとも4、5年で切るべきだと考えられたが、チェンバースは資金を安定的に調達するためにも継続的な関係を重視した。チェンバースは、「最初の5年間は、資金を工面する金をつくるために魂を売った<sup>(32)</sup>」とまでいっている。

アリンスキー死後のIAFは、資金調達、地元団体との関係、組織化という考え、オーガナイザー・リーダーの研修プログラム開発などによって、てんやわんやの状態にあった。こうした難しい状況を救ったのが、コルテスの「神学的関心事<sup>(33)</sup>」であった。コルテスがIAF研修所に入ったのは1971年である。チェンバースは、コルテスの組織化の才能をいち早く見抜き、IAFに招き入れた人物である。チェンバースは、組織が多く欠点を自由に自己批判できる健全な組織文化を発達させようとしたが、IAFの研修プロセスに宗教的・神学的反省を組み込むことには、最初抵抗した<sup>(34)</sup>。

---

(32) Mary Beth Rogers, *Cold Anger: A Story of Faith and Power Politics*, Denton, TX: University of North Texas Press, 1990, p.93.

(33) *Ibid.*, p.93.

(34) チェンバースは、アリンスキーのもとで15年ものあいだ苦楽を共にしてきた気骨のある粘り強い、街頭闘争型活動家であった。彼自身、ベネディクト派神学生として、第二バチカン公会議（1962-1965）前の時期に、カト

コルテスによれば、当時のチェンバースは、「組織化に宗教教育を混ぜ込むことに危うさを感じていた。理由は、宗教教育によって人々が感傷的になるのを恐れたことであった。また、ウエットになることも恐れた。彼は、柔な甘ちゃんではなかった。IAFを1つにまとめ上げようと奮闘していた四十代のチェンバースは、一分の隙もない威厳さを漂わせ、周りの人々を圧倒させるものがあった<sup>(35)</sup>」。

チェンバースは懐疑主義者であった。幅広い神学的議論が、スタッフや主任オーガナイザーのあいだで果てしなく続けられた。チェンバースは認めなかったが、コルテスによれば、彼は「組織化の神学」をもっていたという。コルテスから見れば、チェンバースは自分と「同じ書物を読んでおり、自分と同じ問題と格闘していた」。「組織化というこの仕事は何についてのものなのか。それは公共生活と一般的にどのような関係があるのか。人々の人間的成長との関係はどうか<sup>(36)</sup>」というチェンバースの問いは、コルテスが常々考えていた問題でもあった。

マーク・ウォレンは、チェンバースの組織化の特徴を次の3点にまとめている。(1) 地方傘下団体へのオーガナイザーの供給について長期的な契約を結んだ点、(2) 専従組織家と地元出身のリーダーの協力関係を促進しようとした点、(3) アリンスキーが教会を道具視したのに対して、チェンバースは教会指導者をリソース動員的手段以上のものと

---

リックの実践について深刻な宗教的懐疑を抱いた経験がある。教会の厳格な教えと自分の経験との齟齬感を口にしたチェンバースは、直ちに神学校の退学を申し渡された。彼は神学校を離れた後、ニューヨークのドロシー・デイ(1897-1980)のカトリック労働者運動に関わるようになった。チェンバースにとってデイは、「最初の真の教師と呼ぶべき」(Studs Terkel, "Foreword," in Chambers, *Roots for Radicals*, *op. cit.*, p.12.) 人物であったが、「貧しい人々に尽くそう」という彼の理想主義は、「彼の健康を悪化させ、自分の努力が彼らの現実の生活になんら改善をもたらさないことに無力感を募らせた」(Rogers, *Cold Anger*, *ibid.*, pp.93-94.)。

(35) Rogers, *Cold Anger*, *ibid.*, p.94.

(36) *Ibid.*, pp.94-95.

見、こうした見方が参加型政治を維持するための価値意識を提供できた点である。<sup>(37)</sup>

コルテスは、チェンバースの組織化戦略に耳を傾け、勉強した。「チェンバースが教えたことは、組織化の体系的な方法で、単なる一時的な情緒的反応ではなかった。彼を通じて、組織化は活動と争点だけではなく、価値とビジョンが重要なこと」<sup>(38)</sup>をコルテスは学んだ。

IAFの全国ディレクターとしてチェンバースは、アリンスキーの原則の限界を踏まえて、IAFが中産階級、会衆、近隣住区のニーズに応えうるように「政治」の間口を押し広げた。チェンバースとの議論、読書と反省は、次に紹介するコルテスに神学上の立場と関心を実践的な草の根組織化に接合する機会を与えることになる。

## （２）エルネスト・コルテスとCOPS

エルネスト・コルテスは、サンアントニオ（テキサス州）のセントラル・カトリック・ハイスクールを経て、1959年秋にテキサスA&M大学へ進み、英語と経済学を専攻し、19歳で卒業した。その後、テキサス大学オースティン校に進学し、大学院では経済学を専攻した。特に、経済学者、ヴァーノン・ブリッグスの影響を強く受け、労働市場における職業訓練と公共セクターの役割、市場と労働をつなぐ制度の重要性を学んだ。<sup>(39)</sup>

ブリッグスの人的資本論は、教育と職業訓練の実践に活かされた。COPSとMA（首都圏連合）が1992年にスタートさせたプログラムQUESTは、テキサスIAFが初めてつくった高度技術・高賃金職業訓練

---

(37) Warren, *Dry Bones Rattling*, *op. cit.*, p.47.

(38) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.95.

(39) Ernesto Cortés, Jr., "Training and Immigration in the Real World," in Charles J. Whalen, ed., *Human Resource Economics and Public Policy: Essays in Honor of Vernon M. Briggs Jr.*, Kalamazoo, MI: W. E. Upjohn Institute for Employment Research, 2010, pp.101-110.

プログラムである。その後、IAFは、人的資本の育成、職業訓練センターの創設などにも、機会あるごとにブリッグスの知恵を活かした。<sup>(40)</sup>

父親の死なども手伝って大学院を中退したコルテスは、その後、リオ・グランデヴァレー UFW（統一農場労働者組合）の組織化や、テキサス州南東部の都市ボーモントの黒人教会を基盤とした草の根的な公民権運動の支援、1969年から72年まではサンアントニオでのマイノリティが経営する事業創出の支援をする MAUC（メキシコ系アメリカ人統一会議）の経済開発・住宅担当副ディレクターとして、メキシコ系アメリカ人のエンパワーメント活動に奔走した。コルテスは、シカゴの IAF リーダーシップ研修所での訓練を経て、1972年6月に IAF に正式に加わった。

コルテスは、1971年から2年間、シカゴ、イーストシカゴ、ミルウォーキーのほか、サンアントニオを中心にオーガナイザーとしてのさまざまな経験を積んだ。彼は、1973年にサンアントニオで慈善病院活動に熱心に取り組んでいたエドモンド・ロドリゲス神父と、ウェストサイド地区の貧しいメキシコ系労働者に力を貸す新しい組織づくりについて意見を交わした。自前の資金調達による自立的組織というコルテスの組織論に意気投合したロドリゲスと共に、CMAA（メキシコ系アメリカ人活動委員会）を立ち上げた。サンアントニオの55万人のカトリックのうち40万人がヒスパニック系であることを見据えた上での組織化活動の一環であった。

1974年1月、コルテスは、活動拠点を北部からサンアントニオに移し、

---

(40) QUEST に似たものとして、低地リオ・グランデヴァレーの IAF 組織、ヴァレー超宗派の VIDA、ピーマ郡超宗派会議の JobPaths、オースティン超宗派の Capital IDEA、エルパソ宗派間支援団体のプロジェクト ARRIBA などがある。1992年以降、これら5つのプログラムによって1万人以上の人々が3.2万ドル以上の仕事（訓練前には1万ドル以下）に就くことが可能となった（Cortés, “Training and Immigration,” *ibid.*, p.102; Ernesto Cortés, “Faith, Charity, and Justice,” *The American Prospect*, May 2007, pp. 15-16.）。

## 産業地域事業団（IAF）の思想と行動

ロドリゲス神父やチェンバースの助言も得て、メソジスト、聖公会、長老派、カトリックの聖職者に基金提供者や団体会員なってもらうべく、教派をまたぐ資金支援委員会の組織化に踏み出した。彼は、地元根と倫理的義務感をもつリーダー<sup>(41)</sup>を探した。面接（1人、30分平均）の対象としたのは、PTA や教会活動、ボーイスカウトや社交クラブに熱心な人間を中心に千人以上に上った。選ばれたリーダーには、権力、政治、関係性、あるいは「怒り」について、経験を交えて教え、アリンスキーの原則を実践しようとした。

1974年の夏に、サンアントニオのサウスサイド地区でほったらかしにされていた排水路の整備について、27の教会代表団が議論することになった。教区を超えた住民全体に重要な問題への対応が、COPS（公共サービス推進コミュニティ協会）の誕生のきっかけとなった。COPS という名称は、ある集会で誰かが口にした「You know, they're the robbers and we're the cops.」というジョークで決まった。8月13日にコルテスの助言を受けた教区リーダーたちが市当局と交渉するためにウェストサイド・ハイスクールで集会をもった。そして、11月24日、テキサス IAF の第1号組織となる COPS の設立大会が、ウェストサイド地区にあるジェファーソン・ハイスクールで開かれることになった。この大会には、2千人以上の市民、27の教会の代表、また主婦や看護婦、教師らが教派や人種の別を超えて参加した。サンアントニオの保守的な既得権益層、地元の権力エリートにとっては、初めて目にする光景であった。

こうして生まれた COPS は、サンアントニオ市の財政・予算に口を出し、当局に助成金を要求し、また種々の不買運動などの直接行動を通じて企業にも圧力をかけ、例えばウェストサイド地区に1億ドル超の公共事業費をもってき、貧困地域に道路を通すことができた。1976年にコルテスが、イースト・ロサンゼルスで COPS と同じような組織、UNO

---

(41) 参照, John Gardner, "Good COPS," *In These Times*, November 1 1993, pp. 17-19.

(統一近隣組織団体)を結成するためにサンアントニオを去った後も、COPSは数々の成果をあげていった。

1977年には、人種的不均衡を修正すべく、市会議員選挙を大選挙区制から小選挙区制へと変更する選挙制度改革が議題に上った。1950年代以降、サンアントニオ政治を牛耳ってきた白人・金持ち連合であるGGL(良き統治連合)<sup>(42)</sup>が反対するなか、COPS票がこの住民投票を成功に導いた。新選挙制度下で行われた同年の選挙においてCOPSは、市議会に5人のメキシコ系アメリカ人と1人の黒人を送り込み、「少数民族の大連合」を形成することに成功した。そして、新市長チャールズ・ベッカーは、市が長年無視してきた貧民地区の排水路対策として、4.6億ドルの公債を新規に発行し、選挙民も11月にこれを受け入れた。これは、「COPSがアリンスキーの非党派的な戦略を維持しつつ、その投票基盤を通じて選挙に影響を及ぼした最初の瞬間であった」<sup>(43)</sup>。

1981年には、全米主要都市において2番目の、同市では最初のメキシコ系アメリカ人市長に民主党のヘンリー・シスネロス(1947-)が選ばれた。シスネロスは、GGLの支持を得て1975年に市議員に初当選し、3期務めた人物であったが、GGLを中心とした保守的秩序が瓦解した後<sup>(44)</sup>は、COPSのリーダーの育成に取り組み、四期を務めた。

こうして1973年からの約10年間で、サンアントニオの政治はビジネス・エリートが支配する政治マシーンから市民連合システムへと変化した。その背景には「公民権団体ではなく、毎日の生活水準の具体的な向上に取り組み<sup>(45)</sup>る圧力組織の連合」や少数民族グループが経営する小規模ビジネス

(42) GGLについては、Tucker Gibson, "Mayorality Politics in San Antonio, 1955-79," in David R. Johnson, John A. Booth, and Richard J. Harris, eds., *The Politics of San Antonio: Community, Progress, and Power*, Lincoln, NE: University of Nebraska Press, 1983, pp.114-129 に詳しい。

(43) Warren, *Dry Bones Rattling*, *op. cit.*, p.54.

(44) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.119.

(45) John A. Booth, "Political Change in San Antonio, 1970-82: Toward Decay



スを育成する MAUC の存在があった。

コルテスはチェンバース以上に、大企業や専門家が支配してきたエスタブリッシュメントの世界に対抗しうる教会や地域の力を基盤とした民衆の政治的能力の開発を重視した。<sup>(46)</sup> こうした考え方と戦術によって、貧しい人々や無力な人々の要求に政治・行政エリート、実業界を振り向かせることができたのである。

GGL 解散の翌年の1977年に、「サンアントニオ COPS 対低賃金労働」をテーマに開かれた COPS 大会には、6 千人以上の民衆がつめかけた。IAF は、すでにロサンゼルス、ボルティモア、ニューヨークなどにおいて宗教組織と連携することによって組織の全国化を進めていた。宗教組織に投錨する IAF のこうした戦略の成果として、1978年3月には、文書「家族と会衆のための組織化」がまとめられた。

さらにコルテスらは、1982年にカトリックやメキシコ系の貧しい移民労働者が多く住む低地リオ・グランデ川域にテキサスでは3番目となる IAF 組織、超宗派会ヴァレー・インターフェイスを立ち上げた。取り組むべき課題は、清潔な水の供給であり、排水路整備であった。下水道の補修と給水設備の整備のために1億ドルの資金を獲得できた。COPS やヴァレー・インターフェイスを通じて何万という人々が、<sup>(47)</sup> 「教会の視点で経済を扱ったワークショップに参加した」。

1983年、コルテスは COPS 十周年記念大会を祝うためサンアントニオに駆けつけた。彼は、記念講演で1万人の聴衆を前にして組織化の意

---

or Democracy?” in Johnson, Booth, and Harris, eds., *The Politics of San Antonio*, *op. cit.*, p.195.

(46) Ernest Cortés, Jr., “Reweaving the Social Fabric,” *Boston Review*, June-September 1994, pp.12-14.

(47) Harry C. Boyte, Heather Booth and Steve Max, *Citizen Action and the New American Populism*, Philadelphia, PA: Temple University Press, 1986, p. 176. [野村かつ子・水口哲監訳『アメリカン・ポピュリズム』亜紀書房, 1993年, 308頁]

義を次のように訴えかけ、熱烈な歓迎を受けた。

今日、サンアントニオは、全米で最も開かれた都市の一つとなっています。多元主義、家族、そして言論と集会の自由といった価値が、一つの具体的な現実となっている場所です。〈中略〉あなた方は、民主的な社会の外にいた人々をコミュニティの生活に誘い入れてくれました。そして、あなた方は、そうした人々が人間の尊厳と自尊心を育てる触媒となっているのです。〈中略〉あなた方は私たちに、「燃えているのに燃え尽きない」柴の、消えることのない火の、そして決して抑えこむことができない正義への情熱の真の意味を示したのです。<sup>(48)</sup>

CMAAの研修リーダーであったコルテスが、COPSの表舞台に躍り出た瞬間であった。ブルックリンやロサンゼルスからのIAF派遣代表たちが、COPSの実効性を再確認した。この大会は、IAFにとって政治的に画期的な出来事となったのである。

テキサスIAFそのものは、全米に広がる60以上の傘下組織を抱える全米的なIAFネットワークの1つである。テキサスIAFは、1990年代に入ると目覚ましい躍進を遂げ、2000年までに州内に12の地方組織を擁し、主として教会を基盤とする会員数が40万人を超えるまでに成長した。こうしてテキサスIAFは現在も、「進歩的なコミュニティにおける宗教的関与とインナーシティ等における政治的組織化のモデル」<sup>(49)</sup>として、大いに注目を集める存在であり続けている。<sup>(50)</sup>

---

(48) Geoffrey Rips, "New Democratic Models," *Texas Observer*, 9 December 1983, p. 11.

(49) Warren, *Dry Bones Rattling*, *op. cit.*, p. 8.

(50) IAFは、信仰・教会を基盤としている点で宗教右翼と似ているが、トップダウン型の社会運動ではなく、また非党派的という点でも宗教右翼と異なっている (Jeffrey Stout, *Blessed Are the Organized: Grassroots Democracy in America*, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2010, p. 229.)。信仰

#### 4 新生 IAF の思想と行動

##### （1）「信仰と政治のシナジー」

マーク・ウォレンは、新生 IAF を「信仰と政治のシナジー」と呼んだ。ウォレンによれば、アリンスキー時代の IAF は伝統的な圧力集団政治モデルに位置づけられ、次のような特徴をもつとされた。(1) 貧しい人々が多く暮らすコミュニティにおける組織化、(2) 激しい闘争の政治、(3) 決めた一つの争点の勝利のために闘うためのコミュニティ資源の動員、(4) ある争点で勝っても、幅広い参加を長期間、確保・維持しうる組織づくりには失敗。結果的に、組織は寡頭制化し、数人の聖職者、市民団体の有力者、ほかの団体代表らが組織を支配しだし、組織を保守的とはいわないまでもプログラム経営・管理運営重視の方へと走らせた<sup>(51)</sup>点。以上である。

組織のこうした寡頭制化や管理化への傾斜から脱却するために、チェンバース、コルテスらは、旧来の IAF の組織化手法を子細に検討した。その際、1960年代の公民権運動や反戦運動も参照された。その結果、彼らは、従来の IAF やそれに類する市民団体が、組織の不安定性、実効性の欠如、瓦解のパターンの点で酷似していることに気づいた。メアリー・ロジャーズは、類似点を以下の7点にまとめている。(1) カリスマ的リーダーに依存する組織は、リーダーがいなくなると瓦解する。(2) 単一争点のもとで形成された組織は、その争点が勢いを失うと瓦解する。(3) 公的資金や民間からの助成金、あるいは数人の富裕な寄付者の善意に頼る組織は自立化できない。(4) 手続きにこだわる組織は、行動の好機と柔軟性を失う。(5) 指導者が組織内のアカウントビリティ・

---

を基盤とした宗教右翼については、Jason Hackworth, *Faith Based: Religious Neoliberalism and the Politics of Welfare in the United States*, Athens, GA: The University of Georgia Press, 2012 を参照。

(51) Warren, *Dry Bones Rattling*, *op. cit.*, pp.67-71.

システムなしで機械的に動くような組織は、目を光らす者がいなくなると腐敗する。(6) 世間の注目を意識して演技するような組織は、メディアからの注目への欲求によって足元がすくわれる。(7) 危機への対応ばかりを考えている組織は、組織指導者が直ぐ疲弊する種類の活動に忙殺される<sup>(52)</sup>。

組織論のこうした検討の上に立って新生 IAF は、「貧困・労働者階級市民の利益をまずは増進することを目的とする第二次的結社としての自らの伝統的な役割を保持しつつ、組織を革新し、支持層を拡大するため<sup>(53)</sup>に、戦術に融通をもたせつつ、焦点は絞ったのである」。

こうした組織的刷新の上に立つ「信仰と政治のシナジー」としての新生 IAF は、草の根民主主義の活性化のための新しい力として重視されよう。そのポイントは、ウォレンを再び引けば、以下の諸点にある。(1) 喧伝される「衰退する社会資本」への反証となっている点、(2) 家族の生活と労働の場であるコミュニティへの具体的改善に向けられた努力と結びついた辛抱強い関係構築に焦点を絞っている点、(3) これらの努力が根づく場所として、エリート中心政治から排除された人々(特に女性や少数民族集団)の参加を引き出すコミュニティの諸組織が注目されている点、(4) 家族やコミュニティへの価値に基盤を置いた関与(できる範囲で、社会的正義や人種的包括性への関与を目指す)を基本としている点、(5) メディアへの露出を目標としたキャンペーンを張らない点。より幅広い公共的ステージでは、かなり物静かで、しばしば誰にも気づかれない現象である<sup>(54)</sup>点。以上である。

そして、マイケル・サンデルが観察したように、COPS の訓練を受けた指導者たちは、「地位のある政治家や運動家ではなく、学校の PTA や教会の役員会といった共同体を支える施設において働いてきた人々であ

(52) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, pp.95-96.

(53) Shirley, *Community Organizing*, *op. cit.*, pp.43-44.

(54) Warren, *Dry Bones Rattling*, *op. cit.*, p.9.

る。それは多くの場合女性である。『彼女たちは、生活の大部分を教区と自分の子どものために捧げている。COPS にできることは、彼女たちが公共生活と公共的な視野を持つように教育し、必要な手段を提供することによって、政治過程への参加を実現することである』<sup>(55)</sup>。

コミュニティ生活に対する責任を自覚する女性たちは、特定の争点と同様に、彼らの家族・コミュニティ・信仰に強い関心があり、「信仰と政治のシナジー」を強化した。そうした女性リーダーの1人に、クリスティーン・スティーブンスがいる。彼女は、テキサス州ヒューストンの労働者階級の家庭で育った。スティーブンスは、コルテスがヒューストンに着任する2年前の1976年に同市で、カトリック、プロテスタントの一部を糾合したテキサスで第2番目となるIAFの支部、TMO（大都市圏組織）を立ち上げた女性であった。彼女は、現在ではCOPSの最も有力な指導者の1人であるが、早くからコルテスがリーダーとしての才能を見出ししていた人物であった。スティーブンス女史も、リーダーをコミュニティに根を持っている人々の間に求めた。

私は、ソーシャルワーカーや低レベルの政治家といった自薦のリーダーではなく、教会組織やPTA、学校やサービス団体の素人リーダーを探しました。ほかの分野でリーダーシップを発揮していたり、他人への思いやりや関心、強い覚悟をもって変革に取り組むビジョンをすでに示してきた人々を探しました。一度この人物だと決めたら、私たちオーガナイザーは、彼らと個別に会い、その話に耳を傾けます。一種の求愛プロセスのようなものです。<sup>(57)</sup>

---

(55) Sandel, *Democracy's Discontent*, *op. cit.*, p.337. [前掲訳書(下), 270頁]

(56) 1999年から2008年までIAF全国執行委員を務め、その後、2012年まで全国共同ディレクター(4名の内の1人)、現在は、IAFの西部・南西部ネットワークの共同ディレクター。

(57) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.59.

コルテスは、権力エリートへの対抗組織の拡大運動の要として、教区ごとの動員、身近な問題への取り組みを最優先した。この種の問題は、コミュニティ全域に関係することであり、また教区の重視は、政治エリートを含む権力アクターとの協力関係を構築する上で不可欠な基礎共同体と認識されたのである。

## (2) 「合意の政治」

先に取り上げた1978年3月のCOPS文書「家族と会衆のための組織化」は、IAFがそれまで引きずってきた古いタイプの急進主義と一線を画そうとする努力の表れであった。アリンスキー的なトーンは残るものの、以下の点で、この文書は刷新的であった。(1) 人種、階級、ジェンダーなどの差異を強調する集団アイデンティティ政治とは違って、家族の大切さを守り、若者の危墮に瀕した状態に光を当て、アメリカ人の社会的・精神的生活を豊かにするのに資する第二次的結社を重視している点、(2) 社会問題の是正のために政府の大きな活動を主張するリベラルとは違い、普通の人々の生活に多大な影響を与える巨大企業、マスメディア、恩恵的な政府を批判している点、(3) 60年代型社会運動のロマン主義的性格（脆弱な集合的リーダーシップ、カリスマ的リーダーへの依存）、しっかりした会費基盤の欠如、説明がつかない行動傾向、穏健派・保守派との仲たがいなどを批判している点。<sup>(58)</sup>

さらに1980年代になると、IAFは、組織化の方法を、特定の、階級的・人種的な要求から「合意の政治」へと大きく舵を切っていく。「合意の政治」<sup>(59)</sup>戦略は、コミュニティが強く、労働組合や労働者の活動主義が長

(58) Industrial Areas Foundation, *Organizing for Family and Congregation*, Franklin Square, NY: Industrial Areas Foundation, 1978, pp.3-8.

(59) Benjamin Márquez, *Constructing Identities in Mexican-American Political Organizations: Choosing Issues, Taking Sides*, Austin, TX: University of Texas Press, 2003, p.64.

い伝統を持った北部とは違って、宗教組織は強いが組織化された労働が弱い米南西部において IAF を成長に導いた。IAF は、「進歩的なコミュニティの宗教的関与と都心部における政治的な組織化の努力の結合モデル」<sup>(60)</sup> となったのである。

テキサスのジャーナリスト、デイヴ・デニソンは、「合意の政治」戦略がうまくいった要因として、次の2点を指摘している。<sup>(61)</sup> 第1点目は、テキサス IAF が、「州庁政治における権力の方程式を変化させたこと」、2つ目は、「テキサスにおける政治的対話が変化したこと」である。

新生 IAF の「政治」の捉え方は、コルテスのそれによく表れている。彼は、イギリスの政治学者、バーナード・クリックの「政治」の理解をよく口にし、実践しようとした。そのクリックにとって「政治」とは、「一定領域内の諸利益が調停を必要とするほど強大に成長したとき、そこに統治を可能にするための活動にほかならない」<sup>(62)</sup>。

コルテスの薫陶を受けたスティーブンスは、組織化における自分の仕事は、こうした「政治」理解を人々のあいだに浸透させること、<sup>(63)</sup> すなわち、古い「政治文化の模様替え」であるとして、次のように述べている。

自分がブローカーだとうそぶいている連中がいます。組織をつくるとき、コミュニティにブローカーなんてどこにもいない、と皆にいつてやります。こうして、まさにそうしたブローカー体制を実際に壊そうと努力するのです。政治についての人々の考え方を食べるように努力

---

(60) Warren, *Dry Bones Rattling*, *op. cit.*, pp.7-8.

(61) Dave Danielson, "An Agenda for Progress," *Texas Observer*, 10 February 1989, p.6.

(62) Bernard Crick, *In Defence of Politics*, Harmondsworth, Middlesex: Penguin Books, 1964 (1962), p.21. [前田康博訳『政治の弁証』岩波書店, 1969年, 21頁]

(63) Harry C. Boyte, *Everyday Politics: Reconnecting Citizens and Public Life*, Philadelphia, PA: The University of Pennsylvania Press, 2005, p.52.

するのです。その結果、人々は単に選挙のときだけではなく、はるかに通常のベースで政治過程に関与するようになります。<sup>(64)</sup>

コルテスは、こうした「政治」理解、民主的な政治文化を人々のあいだに積み上げることによって、「合意の政治」の実践を、凡百の経験ある政治家を超えた高みへと引き上げることができたのである。<sup>(65)</sup>

新生 IAF は、アリンスキーとは違った「関係的組織化」を軸とする活動を展開した。関係的組織化は、「コミュニティ・リーダーが行動への共通基盤を一緒になって見出し、またより幅広いコミュニティの利益のために活動する能力の開発のために働いた」<sup>(66)</sup>。チェンバース、コルテスらは、相互利益に基づく協力を通じての権力の潜在的な構築を組織化活動が支える、と考えたのである。

アリンスキー時代の IAF がいつも同じ顔の少数の制度的リーダーに依存していたのとは違って、「聴くアート」としての対面的な集いは、COPS 以後の刷新された IAF の「関係的組織化」を底辺から支える仕組みとなった。スティーブンス女史は、「関係的組織化」の重要性について、改めて次のように述べている。「私は常に原則が重要である人間であり続けてきました。〈中略〉関係を紡ぎ出すという観点では、実際には、『無節操であること (unprincipled)』の意義を学ばなければならなかったともいえます」。

スティーブンスにとって「無節操であること」を学ぶことは、判断の

---

(64) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.148.

(65) 以下、参照。Ernesto Cortés, Jr., "Justice at the Gates of the City: A Model for Shared Prosperity," in Ray Marshall, ed., *Back to Shared Prosperity: The Growing Inequality of Wealth and Income in America*, Armonk, NY: M. E. Sharpe, 2000, pp.361-373; Ernesto Cortés, Jr., "Toward a Democratic Culture," *Kettering Review*, Spring 2006, pp.46-57; Ernesto Cortés, Jr., "Habits of Democracy," *The Texas Observer*, November 17 2006.

(66) Warren, *Dry Bones Rattling*, *op. cit.*, p.51.



留保の仕方を学ぶこと、また自分がある特定の争点にはからずも反対だという理由だけで人々をステレオタイプ化してしまわない方法を学ぶことを意味した。それはまた、「道理がある」ことを学ぶことを意味した。コルテスは、彼女に次のことを教えた。「常に自分のやり方を進めることは正しいことかもしれないが、ほかの人がそれで全てを失ってしまうのであれば、それは理にかなったことではないかもしれない。他者が全てを失わないようにすることが重要だということを考えなければならぬのです<sup>(67)</sup>」と。

## 5 むすびに代えて——「静かな怒り」の方へ

『オバマを読む』の著者、ジェイムズ・クロッペンバーグは、シカゴでのコミュニティ・オーガナイザー時代のバラク・オバマについて次のように述べている。

シカゴのサウスサイド深奥部の通りは、どれも、自己利益の追求、集団間の反目、誤った確信が横行している場所であったけれども、オバマは、それらの事実の認識とほかの教訓とを比較する必要があった。彼は、シカゴの宗教的会衆の一部、すなわち、敵意の政治を演じるのではなく、ときにはみごとに愛の倫理にしたがって行動しようとするキリスト教信者たちによって実践されていた信仰心と赦しとについて学んでもいたのである。彼は、政治に関わることにたいする彼らの怒りだけでなく彼らの共感を方向づけることが可能であると考えていた。オバマによれば、アリンスキーの信奉者たちは、人びとの怒りの吐き出し口として権力と対峙させることによって、その不満を吐き出させたが、それは無益な対峙であった。それにたいして、コミュニティ組織活動家は、人びとの怒りに頼るのではなく、怒りと共感の両方の感

---

(67) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.187.

情に注意を払うべきである。<sup>(68)</sup>

オバマの指摘は、外部の諸勢力への怒りに満ちた攻撃を戦術の中心にすえるアリンスキーの戦略への批判である。1973年にCOPSが最初の幹部選出選挙を行った際、コルテスは、「候補者には怒りと関心という2つの資質が必要だ」と主張した。リーダーに求められる「怒り」とは、真相を突き止めるべく事実にメスを入れ、生活状態の不正さに挑戦する怒りである。コルテスが求める「怒り」は、「何らかの深い個人的経験、癒すことができない傷み・憤慨・恨みによって喚起される抑えがたい感情にしばしば起因する。コルテスは、人々が彼らの怒りと折り合いをつけ、怒りを1つの役に立つ政治的ツールにするのを支援するという難しい仕事に着手した<sup>(69)</sup>」とメアリー・ロジャーズは指摘している。

組織のリーダーは、「自分たち個々人の生活や家族を形づくる個人的な経験を問い、点検するのと同様に、コミュニティを形づくる経済・政治政策を問い、点検する人々でなければならない。彼らは——COPSや新しいIAF組織で意義ある政治活動を始めた何千という仲間のように——、怒りが活動によって正当化され、燃え立たされ、そのエネルギーを彼らの近隣・コミュニティに勝利をもたらすために使う人々である<sup>(70)</sup>」。

コルテスの右腕であるスティーブンス女史は苾まで修道女であったが、また怒れる女性でもあった。彼女の母親はリューマチを長く患い、配管工の父親は仕事を辞めて看病したが、その甲斐なく亡くなった。母親の死後、家計の負担はスティーブンスに重くのしかかった。彼女は、テキサス大学オースティン校への進学を諦め、奨学金で通学できるヒューストン市内の聖トーマス大学に進んだ。

IAFの多くの参加者はスティーブンスに似て、怒りの感情を何度も経

(68) Kloppenberg, *Reading Obama*, *op. cit.*, p.147. [前掲訳書, 182-183頁]

(69) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.189.

(70) *Ibid.*, p.188.

験してきた。スティーブンスは、怒りを爆発させることなく、怒りに正面から向き合おうとした。そのためには、「まず、怒りを恐れないことを学び、ほかの人々も必ずしも怒りを怖がらないことを知ることです。世界には、怒りが怖い経験でない人々が存在していることを学ぶことが大切です<sup>(71)</sup>」と彼女は述べている。スティーブンスが、コルテスやIAFに強く惹かれたのは、生まれて初めて彼女の怒りが正当に評価され、敬意を払われたこと<sup>(72)</sup>であった。

エルネスト・コルテスは、地域社会のなかにこうした人物を今も探し続けている。人々の心にある基本的なもの——怒り——を探しているのである。彼は、人々が個々人の怒りを他者への思いやりの覚醒と結びつけ、次にその怒りが建設的な政治活動へと変換するときに変化が起こる、と信じている。コルテスにとって、「怒りはエネルギーと同じであり、エネルギーは自分自身や隣人を助ける行動にとって必要<sup>(73)</sup>」なのである。

コルテスやスティーブンスが語る、深く、燃えるような怒りは、彼らの心のなかで逆巻く何か、奪われている何か、根本的に不公正な経験や出来事からくるものである。「同じように傷ついた人々に対する共感という感覚<sup>(74)</sup>」。それが、人々に対する熱情と結びついた怒りである。1983年から88年までテキサス州財務補佐官を務めた、本稿でも多く参照したメアリー・ロジャーズの著作のタイトルを借りれば、「静かな怒り（cold anger）」と形容されるものである。それは、一時的な熱狂や激怒とは違った、未来の希望へと開かれた、周到に準備された「怒り」といえよう。

---

(71) 筆者とのインタビュー [2012年3月29日、於・南西部 IAF (Austin: TX)]。

(72) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.57.

(73) 筆者とのインタビュー [2012年3月25日、於・The Inn at Harvard (Cambridge: MA)]。

(74) Rogers, *Cold Anger*, *op. cit.*, p.191.